

教科目名	小児保健コンサルテーション		講義	2単位
担当者	金谷 雅代	専攻科	前期	
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>小児病棟等で看護師として活動したのち看護基礎教育に携わっています。子育て支援に関する研究も行っており、教育・研究の知見を活用し、子どもの保健と健康、子育て支援について皆さんと討議しながら講義を進めていきたいと考えています。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>保育活動においてその役割が期待される小児保健コンサルテーションに必要な専門的知識を学ぶ。また、コンサルテーションの基礎となる問題解決手法について学習し、保育活動の実際に活かす能力を修得する。</p> <p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>ディスカッション等への取組状況：40%、課題レポート：60%</p>				
回	講義計画			
1	イントロダクション	小児保健コンサルテーションとは		
2	対象となる子どもの状況（症状）について①	内容は受講者の要望を聞きながら検討する 例) 気になる子どもの症状・反応		
3	対象となる子どもの状況（症状）について②	例) 食生活と栄養		
4	対象となる子どもの状況（症状）について③	例) アレルギー		
5	対象となる子どもの状況（症状）について④	例) 感染症と予防接種		
6	対象となる子どもの状況（症状）について⑤	例) 子どもに多い疾患		
7	親・祖父母の状況について	小児保健コンサルテーションの対象者として		
8	コンサルテーションに役立つ問題解決手法①	考え方や基本的手順		
9	コンサルテーションに役立つ問題解決手法②	問題解決アプローチ		
10	コンサルテーションに役立つ問題解決手法③	質的統合法 説明とワーク		
11	問題解決手法を用いたケーススタディ①	質的統合法 個人ワーク		
12	問題解決手法を用いたケーススタディ②	質的統合法 発表と全体討議		
13	子育て支援について①	Nobody's Perfect プログラムについて		
14	子育て支援について②	子育て支援に関する各種取り組みについて		
15	まとめとディスカッション	保育活動における役割について		
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p> <p>教科書：なし 参考文献：①澤田淳 編：最新子ども保健，日本小児医事出版社，2017年</p>				

教科目名	家族保健コンサルテーション		講義 2 単位
担当者	原 種孝	専攻科	後期
<p>&lt;講師紹介&gt;  臨床心理士。不登校児、親のカウンセリング 精神科病院で入院・通院カウンセリング  市町村3歳児発達相談（加賀市・白山市）メンタルヘルス研修講師  精神障害者社会復帰 認知症高齢者</p>			
<p>&lt;講師概要・授業目標&gt;  多様な価値観を持つ家族を支援していくか。</p>			
<p>&lt;評価基準&gt;  幅広い視野を持ち、家族を支援していく。</p>			
回	月 日	講 義 計 画	
1	10/7	オリエンテーション（方向づけ、動機づけ）学習目的の確認、課題	
2	10/14	現代社会（背景）と人の価値観（日本社会・家族のあり方などの変化）	
3	10/21	対人関係論・コミュニケーション	
4	10/28	アセスメント	
5	11/4	カウンセリング	
6	11/4	カウンセリングとコンサルテーション	
7	11/11	子どもの情緒の発達と親のかかわり	
8	11/18	自己を知るために 精神分析・交流分析・防衛機制	
9	11/18	ここまでの振り返り、課題の整理	
10	11/25	子どもの心身症（事例）	
11	11/25	子どもの障がいについて	
12	12/2	他機関との連携（重い障がいのある子と親の会・こぐまの会）又は事例	
13	12/7	他機関との連携（医療ケア児）又は事例	
14	12/16	レポートの内容についてのディスカッション	
15	12/23	レポートの内容について（卒業研究も踏まえて） レポート提出	
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;  なし。毎回レジュメ、参考資料を配布。</p>			

教科目名	保育とカウンセリング		講義	2 単位
担当者	松田 昭臣	専攻科	前期	
<p>&lt;講師紹介&gt;  動物実験心理学、カウンセリング、心理療法等が専門。趣味は時代小説、郷土史、庭いじり、川柳。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;  保護者の相談に対応できるようカウンセリングの知識と技術を身につける。</p>				
<p>&lt;評価基準&gt;  出席状況、レポート、授業で学びとったこと（ミニレポート）</p>				
回	講義計画			
1	保育とカウンセリングの概要について			
2	積極的傾聴について			
3	共感的理解について			
4	気づきの体験①（自己への気づき）			
5	気づきの体験②（他者への気づき）			
6	気づきの体験③（人間関係への気づき）			
7	人間関係促進技法の体験①			
8	人間関係促進技法の体験②			
9	人間関係促進技法の体験③			
10	ロールプレイ実習①			
11	ロールプレイ実習②			
12	ロールプレイ実習③			
13	保育相談事例の検討			
14	保育相談事例の検討			
15	カウンセリングの応用			
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;  河合隼雄のカウンセリング入門 創元社 2010年</p>				

教科目名	保育とカウンセリング		講義 1 単位
担当者	荒木 暢通	専攻科	後期（通年）
<p>&lt;講師紹介&gt; 学園職員。児童相談所や精神保健福祉センター、発達障害者支援センター等での勤務経験をもとに、保育現場で保護者支援を行う際に活用できるカウンセリングに関する知識や技術を身に付けてもらいたい。</p> <p>“他人を知るためには、まず自分を知ることが大事”だと考えている。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>前期授業を継続する形で、具体的な事例をもとに、ワークや事例検討を取り入れた形で、保護者支援に必要なカウンセリングマインドを身につける機会を持ちたいと考えている。</p>			
<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>出席状況、授業態度、授業後に提出してもらうレポート内容</p>			
回	講義計画		
1	カウンセリングとは何か～雑談・世間話との違い～		
2	保育現場でのカウンセリングマインドの使い方		
3	自分を知る		
4	相手を理解するためのコツや方法		
5	事例を通して保護者支援を考える（相手の立場に立って理解する）①		
6	事例を通して保護者支援を考える（相手の立場に立って理解する）②		
7	ロールプレイについて（素の自分が相談にのる→役割を演じ相談にのる）		
8	レポート「授業を通して感じたこと」：保護者を支援するということ		
<p>&lt;参考文献&gt;</p> <p>教科書はない。授業に使用する資料は、その都度作成し配布</p>			

教科目名	保育とケースワーク		必修	講義	2	単位
担当者	荒木 暢通	専攻科	後期			
<p>&lt;講師紹介&gt; 学園職員。児童相談所や精神保健福祉センター、発達障害者支援センター等での勤務経験をもとに、保育現場で保護者支援を行う際に活用できるカウンセリングに関する知識や技術を身に付けてもらいたい。</p> <p>“他人を知るためには、まず自分を知ることが大事”だと考えている。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>保育現場に必要な、他機関との連携を含めたケースワークの理論や技術について、具体的な事例をもとに学んでいきたいとします。</p>						
<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>出席状況、授業態度、提出レポート内容、</p>						
回	講義計画					
1	保育とケースワーク概論 1					
2	保育とケースワーク概論 2…保育現場におけるケースワークの必要性					
3	相談援助の具体的展開 1…援助計画、他機関との協同、社会資源の活用					
4	相談援助の具体的展開 2…記録について					
5	保育所におけるケースワークの実際 1（家庭環境に問題のある子ども）					
6	保育所におけるケースワークの実際 2（子どもに問題がある場合）					
7	保育におけるケースワークの実際 3（児童虐待がある家庭の場合）					
8	社会資源について 1…社会資源の名称と役割について					
9	社会資源について 2…周りの資源とどうつなげるか					
10	自分たちで調べた社会資源のリスト作り					
11	保護者について、保護者とうまく関わるためのコミュニケーションスキルについて					
12	グループワークについて					
13	保護者対応マニュアルの作成 1					
14	保護者対応マニュアルの作成 2					
15	保護者対応マニュアルの発表					
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p> <p>教科書は特にない。授業に必要な資料は適宜配布。</p> <p>参考図書「保育士・幼稚園教諭のための保護者支援～保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援～」風鳴舎</p>						

教科目名	音楽療法	必修	講義	1 単位
担当者	桶川 千枝	専攻科		後期
<p>&lt;講師紹介&gt;  知的障害児入居施設にて12年間勤務の後、音楽療法（ミュージック・ケア）を学び、現在、乳幼児から高齢者まで幅広く実践活動を行っています。実践経験を活かし、現場で生かせる技術を指導していきたいと思ひます。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;  音楽療法の手法の一つであるミュージック・ケアの技術（基本楽曲）を学んでいただき、実演見学を通して、保育現場での活用の方法も学んでもらいたいと思ひます。</p>				
<p>&lt;評価基準&gt;  出席状況、授業態度、技術習得度チェック、実演見学レポートを加味した総合的な判断で評価</p>				
回	講義計画			
1	概要と実技体験	ミュージック・ケアの基礎知識を学習と実技体験		
2	基本楽曲習得	基本楽曲の音楽構成と利用方法を学習		
3	基本楽曲復習と習得	前授業で学習した楽曲の習熟度をチェックと新しい楽曲の習得		
4	基本楽曲復習と習得	前授業で学習した楽曲の習熟度をチェックと新しい楽曲の習得		
5	基本楽曲復習と習得	前授業で学習した楽曲の習熟度をチェックと新しい楽曲の習得		
6	基本楽曲復習と習得	前授業で学習した楽曲の習熟度をチェックと新しい楽曲の習得		
7	実演見学	園児との実演を見学してもらいプログラムの立て方を学ぶ		
8	実技習得チェックと理論	総合的な技術のチェックと理論を学ぶ		
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;  だれでも どこでも いつでも 加賀谷式集団音楽療法 実技編 宮本啓子著  だれでも どこでも いつでも 楽しめる音楽療法 ミュージック・ケア実技編 宮本啓子著  ミュージック・ケア その基本と実際 宮本啓子著 川島書店</p>				

教科目名	遊戯療法		講義 2 単位
担当者	横田真佐恵	専攻科	後期
<p>&lt;講師紹介&gt;金沢市内の病院で 30 年以上、心理療法や心理検査等の心理臨床業務に携わっています。資格は臨床心理士と公認心理師です。学生の皆さんの事例への理解には、私自身新しい気づきを得ることがあります。皆さんとの活発なやり取りを通して事例理解を深めることができればと思います。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>「遊戯療法」とは子供を対象に、「遊び」を主な表現・コミュニケーションの手段として行われる心理療法である。「遊び」は子供にとって極めて日常的な外的活動であるが、同時に子供の心のありようと深くかかわり、それを反映している。本講義では、実際の治療例に触れる。事例を通して遊戯療法の理論も概観し、治療の中に表れる子供の心の成長のプロセスを読み取ることで、日常の保育場面で展開される遊びの中にも子供の心のありよう・変化・発達のプロセスを読み取る視点と、それに基づいた子供の心身の健やかな発達を援助する姿勢を養いたい。</p>			
<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>受講態度、講義毎の感想文</p>			
回	講義計画		
1	遊戯療法事例検討①	「人見知りが多いことを主訴として来談した男児との遊戯療法過程」について検討しながら、遊戯療法の理論も概観する。	
2	遊戯療法事例検討②	「人見知りが多いことを主訴として来談した男児との遊戯療法過程」について検討しながら、遊戯療法の理論も概観する。また、絵画療法の体験もする。	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p> <p>参考文献</p> <p>「遊戯療法の実際」 河合隼雄・山王教育研究所 編著 誠信書房</p> <p>「遊戯療法と子どもの心的世界」 弘中正美 著 金剛出版</p> <p>「遊戯療法と子どもの『こころの世界』」 安島智子 著 金子書房</p>			

教科目名	遊戯療法	必修	講義	1単位
担当者	新保 雄希	専攻科	後期	
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>平成16年より金沢市内の認定こども園に勤務し、現在は施設長として、日々の保育の中で現場の保育者とともに実践しているムーブメント教育について、その理論や具体的な活動を実際の子どもたちの様子から学んで頂けるよう努めます。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>ムーブメント教育(movement education)は、子どもの身体能力や運動が、心理的諸機能（認知能力・コミュニケーション能力）や情緒と密接不可欠な関係にあり、前者を促進させることにより、後者の発達を促すことができるという考え方に立つ教育です。つまり、身体運動機能の活動や創造的運動の発達を通じて、学習能力、対人行動能力、自己感情や環境との関係意識などの全人的発達を促そうとするねらいを持つものです。このムーブメント教育の理論に基づくこども達の個別支援について、講義や実技、映像資料から学びます。</p>				
<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>最終回のレポート</p>				
回	講義計画			
1	ムーブメント教育とは	ムーブメント教育の特徴や概要の説明		
2	ムーブメント活動の実践1	実際のムーブメント教育実践の様子（映像資料）を視聴		
3	ムーブメント活動の実践2	実際のムーブメント教育実践の様子（映像資料）を視聴		
4	ムーブメントの環境について	ムーブメント遊具に実際に触れる		
5	ムーブメント理論	達成課題と指導のポイント、アセスメントについて学ぶ		
6	まとめ・試験	5回の講義の中での学びについてレポートを作成、提出		
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p> <p>教科書</p> <p>ムーブメント教育・療育による発達支援ステップガイド 小林芳文編（日本文化科学社）</p> <p>参考文献</p> <p>ムーブメント教育の実践②教具・遊具の活用事例集 小林芳文著（学研）</p> <p>ムーブメント教育の実践① 小林芳文著（学研）</p> <p>障害児教育の新領域「自立活動」支援のための&lt;全4巻&gt;小林芳文編著（明治図書）</p> <p>医療スタッフのためのムーブメントセラピー 小林芳文著（メディカ出版）</p>				



教科目名	次世代育成支援と保育		講義 2 単位
担当者	高野 史朗	専攻科	前期
<p>&lt;講師紹介&gt;  当学園園長、児童福祉施設の児童自立支援施設で児童自立支援専門員及び家庭支援専門相談員を担当、その後身体障害者更生相談所にて身体障害者福祉司、児童相談所にて児童福祉司業務を担当して現在に至る</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭支援施策の動向と現状を理解し、地域における様々な子育て支援のサービスの実態について理解する。</li> <li>・次世代育成支援における課題や取り組み、施策について理解する。</li> </ul>			
<p>&lt;評価基準&gt;  現場担当者からの講義や体験を通してのレポート 出席状況 自主活動</p>			
回	講義計画		
1	次世代育成支援とは何か	講義	
2	地域の子育て支援 1	利用者支援事業	あさがお
3	地域の子育て支援 2	利用者支援事業	あさがお
4	保育所での子育て支援 1	保育現場での子育て支援	かもめ保育園
5	保育所での子育て支援 2	保育現場での子育て支援	
6	県の子育て支援の取り組み	子育て支援課担当	課長
7	子育て支援財団における子育て支援	子育て支援財団	理事長
8	病児保育 1	病児・病後児保育の実際	
9	病児保育 2	病児・病後児保育の実際	
10	児童相談所における子育て支援	児童相談所	虐待対応
11	その他の子育て支援 1	家庭児童相談室	要保護児童対策地域協議会
12	その他の子育て支援 2	保健センター	母子保健との連携
13	その他の子育て支援 3	発達支援センター	障害児支援
14	最近の子育て支援をめぐる国の動き 1	顧問	
15	まとめ	まとめ	
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;  指定なく 現場訪問等を中心に学ぶ</p>			

教科目名	保育内容特別演習		必修 演習 1 単位
担当者	西川 一美	専攻科	前期
<p>&lt;講師紹介&gt; 幼・小・中高理科の専修免許を有する教育学修士。児童書の出版販売会社で四半世紀を越す。園サポート、子育て支援、図書館コーディネーターの実績をもつ。即現場に生かせる内容を厳選しました。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;  今や至るところで、私たちを取り巻く電子メディアが子どもたちに与える様々な影響を知り、触れずに成長発達できるための手段や環境づくりについて学習する。</p>			
<評価基準> ①レポート提出 ②実技と作品の評価 ③作文			
回	講義計画		
1	私が育った時代と環境	各自をふりかえり、メディアと文化の変遷をたどる。	
2	生命が生まれる・生命が育つ	発生・発達の遺伝要因と環境要因の違いと実態について。	
3	子どもの絵は語る	発達にともなう絵の文化と心理学的意義について。	
4	自然と遊ぶ	自然あそびの際のコツや留意点、保育室環境への取り入れなどを具体的に学ぶ。(実技)	
5	今こそえほんを	絵本の選び方、出会わせ方等、現場ニーズにこたえる。	
6	五感イキイキ 泥だんご	五感に直結したあそびの重要性と楽しさを泥だんご作りで体感する。(実技)	
7	絵の具はこわくない	キミ子方式の色づくりと水彩絵の具の導入について。(実技)	
8	遊びとおもちゃそのルーツ	おもちゃの起源と変化や特性を子どもの発達と絡めて学ぶ。	
9	昔あそびのかかく	こま・けん玉を中心に伝承遊びの秘密と秘訣を学ぶ(実技)	
10	身近に科学あそび	身近な素材や道具にかくれた「科学」に気づき、楽しくその芽を育てる術を学ぶ。	
11	積木が育てる力	積木のルーツと特性、管理方法や基本的なあそび方学ぶ	
12	うた・歌・唄	子どものうたの変遷と特性、保育の中の「音楽」の果たす役割について。	
13	子どもとメディアの問題	メディアがひき起こす子どもの脳・身体の諸問題。	
14	育ちを引き出すリズム遊び	子どもが育つのに欠かせない「リズム遊び」のもつ力を脳科学と実例から学ぶ。	
15	私ができること していききたいこと	作文と実技・レポート発表	
<教科書・参考文献> 「メディアにむしばまれる子どもたち」 教文館 田澤雄作著 その他 天候の都合により、授業順の入れ替えの可能性があります。			

教科目名	保育内容特別演習		必修 講義 1 単位
担当者	松田 好子	専攻科	後期
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>金大附属幼稚園で幼稚園教諭、石川県立保育専門学園等での非常勤講師を経て、現在、大阪芸術大学通信教育部特任講師をしている。また、金沢星稜大学子ども学科で「特別支援保育論」の非常勤講師等をしている。保育現場では、いろいろな気になる子どもが増えています。気になる子どもに寄り添いながら、子どもたち同士が育ちあえる保育・保育環境を模索し子どもとともに育つ保育者となるよう授業を行います。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>今まで学んできた保育の授業や実践を基盤にして「一人ひとりの子どもを理解する力」をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金大附属幼稚園で、3, 4, 5歳児の保育を参観し、保育者の援助等を観察しながら幼児期における教育について考える</li> <li>・発達障害に対する知識を増やし、具体的な支援事例を通して支援方法を学ぶ</li> <li>・インクルーシブ保育を行っている幼稚園を参観し、子どもの様子や保育者の援助等を学ぶ または、希望によっては 特別支援学校の低学年の授業の様子や同学校の地域支援室の役割等について学ぶ</li> <li>・インクルーシブ保育について学ぶ</li> <li>・一人ひとりを大切にしながら、特別に支援を必要としている子どもの将来を見据えた保育を探り、子どもたちが社会の中でより良く生きるための連携等を考える</li> </ul> <p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>毎回の授業後のレポート、授業態度、 自己課題レポート（授業のはじめに自己課題を設定し、最終授業の後提出）</p>			
回	講義計画		
1	幼児教育について	保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂と保育について考える	
2	金大附属幼稚園 保育参観	幼児期における教育について考える 金大附属幼稚園で、3, 4, 5歳児の保育を参観し保育者の援助を観察する	
3	金大附属幼稚園 保育参観	幼児期における教育について考える 金大附属幼稚園で、3, 4, 5歳児の保育を参観し保育者の援助を観察する	
4	発達障害について	障害のある子どもの将来を見据えて保育することの意味を考える	
5	石川県発達障害者支援センター 見学・説明	発達障害者への具体的な支援事例を聞き、支援方法を学ぶ	
6	石川県発達障害者支援センター 見学・説明	発達障害者への具体的な支援事例を聞き、支援方法を学ぶ	
7	「一人ひとりを大切にすること」について	一人ひとりを大切にしながら、保育・社会の中でより良く生きるための連携等を考える	
8	白山市立松任幼稚園 または石川県立いしかわ特別支援学校 での 保育 (授業) 参観	インクルーシブ保育を行っている幼稚園を参観し、子どもの様子や保育者の援助を学ぶまたは特別支援学校の低学年や同学校の地域支援室の役割について学ぶ	
9	白山市立松任幼稚園 または	インクルーシブ保育を行っている幼稚園を参観し、子どもの様子や保育者の援助を学ぶ	

	石川県立いしかわ特別支援学校での保育(授業)参観	または 特別支援学校の低学年や同学校の地域支援室の役割について学ぶ
10	インクルーシブ保育とまとめ	インクルーシブ保育について考える それぞれの子どもの生活・遊び・育ちなどの理解を深め、将来の生活につながる保育について考える
11		
12		
13		
14		
15		
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;          保育所保育指針、幼稚園教育要領          「障がい児保育の基礎」(柴崎 正行編著 わかば社)</p>		

教科目名	保育内容特別演習		演習 1単位
担当者	北村 満	専攻科	後期
<p>&lt;講師紹介&gt;自ら工房「工房ヒゲキタ」を設立。手作りのプラネタリウムとその投影活動を行っている。平成 18 年より当学園の学生に教材の理解と環境構成の在り方について指導を行っている。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>いろいろな工作を実際に行ってみることによって、技術、知識、楽しさを実感してもらう。</p>			
<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>最終回に各自が素材を持って来て、講師となり工作を指導、制作してもらう。</p>			
回	講義計画		
1	自然素材工作 草花あそび		
2	折り紙あそび		
3	牛乳パックリサイクル工作		
4	ストロー、紙コップなど身近な素材を使った工作		
5	互いに工作を指導、制作		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p>			

教科目名	障がい理解 2 単位		
担当者	小坂 正栄	保育学科 2年	前期
講師紹介 前年同様			
<講義内容・講義計画>			
1	障がい児・気になる子とは？ これまでの知識・経験の確認	9	集団の中での発達障害児 家族の葛藤と心境の理解
2	気になる子との出会い まず、気付くこと。アセスメント	10	集団の中での発達障害児 検診前後の保育士の役割
3	自閉スペクトラム児との出会い 学習スタイルの違いについて・事例	11	集団の中での発達障害児 他機関との連携・医療機関・相談機関
4	ADHD 児のとの出会い まず理解。集団の中でのアセスメント	12	柳下先生 講義①
5	ADHD 児のとの出会い まず理解。家庭の中でのインテーク	13	柳下先生 講義②
6	学習障害予備軍 まず、気付くこと。アセスメント	14	柳下先生 講義③
7	学習障害予備軍 集団での姿・園での様子	15	前期まとめ・試験
8	障がい児・気になる子とは？ これまでの知識・経験の確認		順番変更あり
<教科書・参考文献>			
<p>新版ポーター早期教育プログラム～0歳からの発達チェックと指導ガイド～山口薫氏訳          新版 チェックリスト</p> <p>合同出版『ポーター・マニュアル』</p> <p>KIDS 発達検査表・すこやか手帳・5歳児検診 DVD 等</p>			

教科目名	障がい理解 2 単位		
担当者	小坂 正栄	専攻科	後期
講師紹介 前年同様			
<講義内容・講義計画>			
1	発達障害児・その周辺の子ども達 理解と支援。その方法	9	キャロルグレイ氏 SST トニープサン氏・マインドマップ
2	見通しの立て方 その具体的手立て・視覚的援助	10	問題行動の原因 その理解・原因を探る
3	行動の切り替え援助 その具体的手立て・物理的援助	11	問題行動の解決の仕方 その理解と支援 課題分析
4	不器用さの気づき その具体的手立て・遊び方	12	インシデントプロセス法 問題行動をチームで実践する方法
5	ADHD 児の遊び 一番になれなかった時・負けた時支援	13	発達障害・その周辺の大人について 理解と支援の有効性
6	自閉症スペクトラム障害 その遊びを広げる・繋がり合う	14	後期まとめ・試験
7	発音不明瞭児・吃音児・緘黙児 発達支援とメンタルを支える	15	試験振り返り・修正と提案
8	てんかん児 気づきと支援・保育士が出来る事		順番変更あり
<教科書・参考文献>			
<p>新版ポーターページ早期教育プログラム～0歳からの発達チェックと指導ガイド～山口薫氏訳          新版 チェックリスト</p> <p>合同出版『ポーターページ・マニュアル』          KIDS 発達検査表・すこやか手帳・5歳児検診 DVD 等</p> <p>キャロルグレイ氏・ソーシャルストーリー・コミック会話          トニープサン氏・マインドマップ 学研</p>			

教科目名	レクリエーション		講義・演習	3 単位
担当者	高野 史朗	専攻科	通年	
<p>&lt;講師紹介&gt;          当学園園長 体育大学卒業 地域のスポーツ推進委員 スポーツプログラマーの資格を有して、地域住民の生涯スポーツのボランティア活動を行う</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の現場で子どもたちとの遊びを通じた創造性を育む活動を体験する</li> <li>・ニーズに応じた目的を達成するためには決められたルールや道具にこだわることなく創意工夫が重要であることを学ぶ</li> </ul>				
<p>&lt;評価基準&gt;          実践活動 レポート 創作活動 ファイリング</p>				
回	講 義 計 画			
1	レクリエーションとは			
2	自然と親しむ	花づくり	あさがお・ひまわりの育て方	
3	自然と親しむ	昆虫と親しむ	カブトムシを育てる	
4	自然と親しむ	自然散策		
5	ニュースポーツ研修会		スポーツでリフレッシュ	
6	ニュースポーツ		ゲーム遊び	
7	ニュースポーツ活動 1		ペタンク ポッチャー カローリング	
8	ニュースポーツ活動 2		インディアカ ソフトバレーボール	
9	ニュースポーツ活動 3		ミニ運動会（親子行事）の企画立案	
10	ニュースポーツ活動 創作		自主ニュースポーツ企画	
11	レクリエーション創作ダンス		準備体操 リズム体操	
12	季節ごとの創作活動		こいのぼり 母の日 父の日	
13	季節ごとの創作活動		七夕 ハロウィン クリスマス ひな祭り	
14	おもちゃ作り		シャボン玉 お手玉	
15	まとめ		1年間の創作活動をまとめる	
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p>				



教科目名	造形総合表現		演習 1単位
担当者	林亜耶子	専攻科	前期
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>当学園職員。県立高等学校・特別支援学校の美術教諭として13年間勤務。泉こども園の造形教室も担当している。「上手く作る・描くこと」よりも、造形活動を通じて、身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わうこと、自らのイメージを形にする喜びを感じることを重視し、授業を展開したい。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>作品作りを通して「美術」に対する知識、理解を深め、創造活動を楽しむ姿勢を養う。</p>			
<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>出席日数＋授業態度＋提出作品</p>			
回	講義計画		
1	オリエンテーション	オリエンテーション	
2	造形活動における環境づくり	造形活動における環境設定についての考察と実践	
3	消しゴムハンコを作ろう①	保育の現場で使える消しゴムはんこを制作する	
4	消しゴムハンコを作ろう②	保育の現場で使える消しゴムはんこを制作する	
5	手作りろうそくを作ろう①	ろうを、加工・着色して、手作りろうそくを作る	
6	手作りろうそくを作ろう②	ろうを、加工・着色して、手作りろうそくを作る	
7	泉こども園での造形遊び①	<準備>年齢に合った題材を決め、材料等を準備する	
8	泉こども園での造形遊び①	<実践>	
9	泉こども園での造形遊び②	<準備>年齢に合った題材を決め、材料等を準備する	
10	泉こども園での造形遊び②	<実践>	
11	泉こども園での造形遊び③	<準備>年齢に合った題材を決め、材料等を準備する	
12	泉こども園での造形遊び③	<実践>	
13	草木染め 体験	玉ねぎの皮・ヨモギ等をつかった草木染めを体験する	
14	粘土クッキーを作ろう	粘土のような質感のクッキー生地で、オリジナルクッキーを作る	
15	レッジョ・エミリアについて	レッジョ・エミリア教育について学ぶ	

教科目名	体育あそびとボディワーク		必修	演習	1	単位
担当者	藤田 久美子	専攻科	前期			
<p>&lt;講師紹介&gt; 当学園職員。体育教師として県内の高等学校に33年間勤務。当園に勤務し4年目に入る。いろいろな遊び等を通して体を動かす楽しさを伝えていきたい。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt; 子どもたちに提供する運動あそびの実際と留意点について学ぶ。</p>						
<p>&lt;評価基準&gt; 出席状況等を総合的に評価する。</p>						
回	講義計画					
1	オリエンテーション 講義の目的について					
2～3	伝承遊び 伝承遊びを学ぶ					
4～9	野外活動 野外での遊びについて学ぶ					
10	じゃんけん遊び じゃんけんを使った遊びの紹介					
11	ボール遊び ボールを使った遊びの指導					
12	新聞紙で遊ぶ 新聞紙を遊具とした遊び					
13	登山 金沢近郊の里山登山をする					
14	救急法 子どもの救急法について					
15	まとめ					
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p>						

教科目名	音楽総合表現			必修	演習	1単位
担当者	日向 亜希子	専攻科	後期			
<p>&lt;講師紹介&gt;当学園職員。市立中学校、県立高等学校音楽教諭として、18年間勤務。手遊び、器楽合奏、簡単な伴奏づくり、ミュージカルづくり等を通し音楽の楽しさを伝えたい。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>個人の音楽的能力・表現能力を高め、保育者として幼児の音楽表現活動への理解を深める。  子どもの豊かな感性と表現しようとする意欲を育て、創造性を豊かにするための適切な援助について考える。</p> <p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>練習、コンサート、レポート およびその他の授業のレポート、発表等による</p>						
回	講義計画					
1	ヴォイスアンサンブル・ボディーパーカッション② 伴奏法、コード奏について①基礎編		創作①			
2	ヴォイスアンサンブル・ボディーパーカッション③ 伴奏法、コード奏について②基礎編		創作②			
3	いろいろな楽器に触れてみよう！					
4	クリスマスコンサートの企画① コード奏について③応用編、編曲について					
5	クリスマスコンサートの企画② 練習①					
6	クリスマスコンサートの練習②					
7	クリスマスコンサートの練習③					
8	クリスマスコンサートの練習④					
9	クリスマスコンサートの練習⑤					
10	クリスマスコンサートの練習⑥ クリスマスコンサート リハーサル					
11	クリスマスコンサート（泉こども園）					
12	コンサートのまとめ					
13	音の実験室・いろいろな音を楽しむ					
14	楽器づくり					
15	楽器作りと発表					
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p> <p>その都度資料等を提示する</p>						

教科目名	児童研究	必修・選択	講義・演習 3単位
担当者	高野 史朗	専攻科	通年
<p>&lt;講師紹介&gt;  当学園園長、児童福祉施設の児童自立支援施設で児童自立支援専門員及び家庭支援専門相談員を担当、その後身体障害者更生相談所にて身体障害者福祉司、児童相談所にて児童福祉司業務を担当して現在に至る</p>			
<p>&lt;講義概要・授業目標&gt;  保育場面で自分自身が目指す保育の専門性を高めたいテーマについて、調査研究し、自分の専門分野に繋がられるように論文にまとめる。全員の前で発表する流れを通して、将来現場で行う「保育実践研究」に役立つ、知識や技術を身に付けることを目指す。</p>			
<p>&lt;評価基準&gt;  ① 出席状況 ② 授業態度 ③ 提出物 ④ 研究発表</p>			
回	講 義 計 画		
1～3	児童研究の概要・目的	何をテーマとするかを思考する	
4	研究テーマ発表会の準備	研究計画をもとに、テーマ発表会に向けての準備を行う	
5	研究テーマ発表会	研究テーマについてクラス内で発表し自分の取り組みを再確認する	
6～10	研究内容について調査	研究について、資料集め、アンケートやインタビュー等の手段、方法をまとめる	
11	調査方法等について経過報告会	経過を発表し、研究内容を確認する	
12～15	研究テーマについて調査・研究	インターンシップや施設見学、訪問調査等で研究テーマについての調査・確認	
16～20	研究テーマについて調査・研究	個別での現場調査・資料収集	
21	研究テーマについて調査・研究の実施まとめ	資料の整理・研究確認	
22	研究に向けて調査・研究の考察	論文の考察	
23	研究に向けて調査・研究の考察	論文の完成	
24	研究に向けて調査・研究の考察	抄録の考察	
25	研究に向けて調査・研究の考察	抄録の完成	
26～27	児童研究のまとめ	パワーポイントの考察	
28～29	児童研究のまとめ	パワーポイントの発表練習	
30	児童研究の発表	まとめ	
<p>&lt;教科書・参考書&gt; 「はじめての保育実践研究」一藝社 開 仁志著（1年次購入）</p>			

教科目名	事例研究			講義 2 単位
担当者	高野 史朗 荒木 暢通	専攻科	前期	
<p>&lt;講師紹介&gt; 当学園職員。両名とも児童相談所、児童福祉施設、精神保健福祉センター、発達障害者支援センター等での勤務経験を基にして授業を行いたい。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt; 保育場面でよく起こる問題への対応を学ぶ方法には、実際に自らの体験を通して学ぶ方法の他、子どもや保護者に関する他者が体験した事例（架空、体験）から学ぶ方法も有効と考えられる。事例研究を通して学んだ知識があることで、実際に似た事例に遭遇した際に、戸惑わずに対応できる場合もあるので、一緒に考えるという方法を取りながら、将来現場で役に立つような授業を行っていきたいと考えています。</p> <p>事例検討を行うに当たり、まず自分のクセを知り、相手の思いを理解し、相手の気持ちを変化させる技法について学ぶ。また、学園内外で開催される研修会や講演会に積極的に参加することを通してスキルアップを図る。</p>				
<p>&lt;評価基準&gt; ① 出席状況 ② 授業態度 ③ レポート</p>				
回	講 義 計 画			
1	事例研究とは			
2	事例検討の方法について			
3	事例検討を体験する			
4	事例のまとめ方			
5	自分を知る（自分を知る） 1			
6	自分を知る（自分を知る） 2			
7・8・9	学園開催、及び学外開催の研修会、講演会への参加			
10	相手の気持ちを理解する 1（相手の気持ちの理解について：概論）			
11	相手の気持ちを理解する 2（言葉以外の情報から：動作や態度）			
12	相手の気持ちを理解する 3（言葉以外の情報から：作品等）			
12	相手の気持ちを理解する 4（言葉以外：その他）			
13	相手の気持ちを変化させる 1			
14	相手の気持ちを変化させる 2			
15	前期授業のまとめ			
<p>&lt;教科書&gt; 教科書の指定なし。*授業に必要と考えられる資料を、その都度使用</p>				

教科目名	事例研究			必修	講義	2 単位
担当者	高野 史朗	荒木暢通		専攻科		後期
<p>&lt;講師紹介&gt; 当学園職員。両名とも児童相談所、児童福祉施設、精神保健福祉センター、発達障害者支援センター等での勤務経験を基にして授業を行いたい。</p> <p>&lt;講義概要・授業目標&gt; 前期に引き続きの授業となるが、講師が提示する事例（架空、体験）や学生の実習やインターンシップを通じて体験した事例をもとに、子どもや保護者の気持ちを理解し、支援する方法を学ぶ。また、前期同様学園内外で開催される研究会などにも参加し、スキルアップを図る。</p>						
<p>&lt;評価基準&gt; ① 出席状況 ② 授業態度 ③ レポート</p>						
回	講 義 計 画					
1	具体的な事例を考える 1					
2	具体的な事例を考える 2					
3	具体的な事例を考える 3					
4	学生の事例を考える 1（インターンシップ・実習を通して）					
5	学生の事例を考える 2（インターンシップ・実習を通して）					
6	学生の事例を考える 3（インターンシップ・実習を通して）					
7・8・9	学園主催講座参加					
10	周りの社会資源を理解する					
11	社会資源の活用のしかた（事例を通して考える）					
12・13	子どもを支援する資源について調べる（名称、法的根拠、役割）					
14	子どもを支援する資源について（発表）					
15	まとめ					
<p>&lt;教科書&gt; 教科書の指定なし。*授業に必要と考えられる資料を、その都度使用する</p>						

教科目名	地域社会と保育		必修	演習	1単位
担当者	専攻科担任	専攻科	通年		
<p>&lt;講義概要・授業目標&gt;</p> <p>近年、子どもを取り巻く環境の変化は著しい。その最も顕著な例は社会問題となっている いじめや不登校、虐待、DV（ドメスティック・ヴァイオレンス）であると言えよう。このような社会の大きな変化に伴い、各自治体や保育機関、福祉機関、教育委員会、各種団体では各種の研修会や講演会、ボランティア活動を積極的に催している。また、芸術・スポーツ・文化における様々な展覧会、公演、イベント等も多く開催されている。</p> <p>本教科目では、これらの外部団体の有用な催しに積極的に参加し「現在」を反映した情報や知識、感性や見聞を広げることを目的とする。</p>					
<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>受講後 10 日以内にレポート提出をもって受講認定とする</p> <p>評価は総時間数と認定された受講回数をもって行う</p> <p>単位認定に必要な総時間数：23 時間以上</p> <p>S：10 回、A：8 回以上、B：6 回以上、C：4 回以上、D：3 回以下（単位不認定）</p>					
講 義 計 画					
<p>各自治体や保健機関、福祉機関、教育委員会、各種団体などが催す講演会、講座、研修会、ボランティア活動、音楽会、展覧会など外部のイベントに学生が参加し、見聞を広げる。</p> <p>(内 容)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、保育関係</li> <li>2、いじめ</li> <li>3、虐待</li> <li>4、DV（ドメスティック・ヴァイオレンス）</li> <li>5、保健</li> <li>6、栄養</li> <li>7、不登校など教育機関</li> <li>8、芸術（音楽、美術）体育・スポーツ</li> <li>9、その他（必要に応じて認可）</li> </ol> <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 受講種別はボランティア、音楽会、展覧会、講演会（講座、研修）、視察とする。</li> <li>* 受講に際しては必ず本人が申請し、担任からの許可を得ること。</li> </ul> <p>（必要に応じて開催要項などの提示を求める）</p>					
<p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p> <p>なし</p>					